

## レディーミクストコンクリート配合計画書

2024年 4月 1日

広島県生コンクリート工業組合

殿

製造工場名 中岡生コンクリート株式会社  
広島県東広島市安芸津町木谷乙3517-5  
TEL : (0846)45-5001  
FAX : (0846)45-5720

配合計画者名 中岡 優 司

工事名称	HP掲載用2024
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月下旬~7月上旬 9月中旬~12月中旬 標準配合
コンクリートの打込み箇所	

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼び強度	スラブ <sup>°</sup> 又はスラング <sup>°</sup> フォー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 °C
	水和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	60 %
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位セメント量の目標値の下限	kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保證する材齢	28 日		又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	空気量	4.5 %		流動化後のスラング <sup>°</sup> 増大量	cm

## 使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社		密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> O <sub>eq</sub> %				
混和材①	製品名	種類		密度 g/cm <sup>3</sup>		Na <sub>2</sub> O <sub>eq</sub> %				
混和材②	製品名	種類		密度 g/cm <sup>3</sup>		Na <sub>2</sub> O <sub>eq</sub> %				
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性 による区分	粒の大きさ の範囲	粗粒率又は 実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>	微粒分量 の範囲 %		
				区分	試験方法		絶乾	表乾		
細骨材	①	砕砂	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタルバー法	2.5	2.74	2.58	3.0±2.0	
	②									
	③									
粗骨材	①	砕石4020	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタルバー法	40~20	58.0	2.61	2.62	0.5±0.5
	②	砕石2010	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタルバー法	20~10	58.0	2.61	2.62	0.5±0.5
	③	砕石1505	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタルバー法	15~5	56.0	2.61	2.62	0.5±0.5
混和剤①		マスターポリート 15L		種類	AB減水剤		Na <sub>2</sub> O <sub>eq</sub>	1.0		
混和剤②	製品名						%			
混和剤③										
細骨材の塩化物量①		水の区分	上水道・上澄水				目標スラング <sup>°</sup> 固形分率		%	
回収骨材の使用方法	細骨材		粗骨材				安定化スラッジ水の使用の有・無			

配合表 (kg/m<sup>3</sup>)

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③
262			153	810			422	369	262	2.88		
水セメント比	58.5 %		水結合材比			%	細骨材率	43.9 %				

粗骨材混合比(容積) 砕石4020A:砕石2010A:砕石1505A=40:35:25

備考 配合切り替え日は、工程検査で測定したコンクリート温度が別紙表中の各予想練り上がりコンクリート温度を連続3点又は、5点中  
超えたとき又は下回ったとき。  
骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

規格区分: J I S 該当品

配合計算書

呼び方	コンクリートの種類 による記号 普通	呼び強度 24	スラング又はスラングフー cm 8	粗骨材の最大寸法 mm 40	セメントの種類 による記号 BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 ℃
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	60 %
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保證する材齢	28 日		単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	空気量	4.5 %		流動化後のスラング増大量	cm

変動係数(V) 当社社内規格値より V = 9.0 (%)

配合強度(m)  
 $\alpha 1 = 0.85 \div (1 - 3.000V \div 100) = 1.16$   
 $\alpha 2 = 1.00 \div (1 - 2.000V \div 100) = 1.22$   
 $\alpha 1、\alpha 2$ の最大値を割増し係数とします。  
 $m = \alpha \times SL = 29.3$   
 以上より、配合強度(m) = 29.3(N/mm<sup>2</sup>)とします。  
 $\alpha = 1.22$   
 $m = 29.3(N/mm^2)$

水セメント比(W/C)  
 $29.3 = -15.1 + 26.1 \times C/W$ より W/C = 58.783 (%)  
 W/C = 58.5 (%)

単位水量(W) 当社社内規格値より W = 153(kg/m<sup>3</sup>)

単位セメント量(C)  
 $C = W \div W/C \times 100 = 153 \div 58.5 \times 100 = 262(kg/m^3)$   
 $V_c = C \div \rho_c = 262 \div 3.04 = 86(l/m^3)$   
 C = 262(kg/m<sup>3</sup>)  
 V<sub>c</sub> = 86(l/m<sup>3</sup>)

粗骨材かさ容積(Q/m<sup>3</sup>) 当社社内規格値より V = 665(l/m<sup>3</sup>)

単位粗骨材量(G)  
 $V_g = V \times \text{実積率} \div 100 = 665 \times 60.5 \div 100 = 402(l/m^3)$   
 $V_{g1} = V_g \times (40 \div (40 + 35 + 25)) = 161(l/m^3)$   
 $V_{g2} = V_g \times (35 \div (40 + 35 + 25)) = 141(l/m^3)$   
 $V_{g3} = V_g - V_{g1} - V_{g2} = 100(l/m^3)$   
 $G_1 = V_{g1} \times \rho_{g1} = 161 \times 2.62 = 422(kg/m^3)$   
 $G_2 = V_{g2} \times \rho_{g2} = 141 \times 2.62 = 369(kg/m^3)$   
 $G_3 = V_{g3} \times \rho_{g3} = 100 \times 2.62 = 262(kg/m^3)$   
 V<sub>g</sub> = 402(l/m<sup>3</sup>)  
 V<sub>g1</sub> = 161(l/m<sup>3</sup>)  
 V<sub>g2</sub> = 141(l/m<sup>3</sup>)  
 V<sub>g3</sub> = 100(l/m<sup>3</sup>)  
 G<sub>1</sub> = 422(kg/m<sup>3</sup>)  
 G<sub>2</sub> = 369(kg/m<sup>3</sup>)  
 G<sub>3</sub> = 262(kg/m<sup>3</sup>)

単位細骨材量(S)  
 $V_s = \text{コンクリート容積} - (W + V_c + V_g + V_{air})$   
 $= 1000 - (153 + 86 + 402 + 45) = 314(l/m^3)$   
 $S = V_s \times \rho_s = 314 \times 2.58 = 810(kg/m^3)$   
 V<sub>s</sub> = 314(l/m<sup>3</sup>)  
 S = 810(kg/m<sup>3</sup>)

細骨材率(s/a)  
 $s/a = V_s \div (V_s + V_g) \times 100 = 314 \div (314 + 402) \times 100 = 43.9(\%)$   
 s/a = 43.9 (%)

単位混和剤量(Ad)  
 $Ad_1 = C \times \text{添加率} \div 100 = 262 \times 1.100 \div 100 = 2.88(kg/m^3)$   
 Ad<sub>1</sub> = 2.88(kg/m<sup>3</sup>)

配合表 (kg/m<sup>3</sup>)

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③	
262			153	810			422	369	262	2.88			
水セメント比			58.5 %	水結合材比			%			細骨材率			43.9 %

## レディーミクストコンクリート配合計画書

2024年 4月 1日

広島県生コンクリート工業組合 殿

製造工場名 中岡生コンクリート株式会社  
広島県東広島市安芸津町木谷乙3517-5  
TEL : (0846) 45-5001  
FAX : (0846) 45-5720

配合計画者名 中岡 優 司

工 事 名 称	H P 掲 載 用 2024
所 在 地	
納 入 予 定 時 期	
本 配 合 の 適 用 期 間	6月上旬～10月中旬 夏期修正標準配合
コンクリートの打込み箇所	

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼 び 強 度	スランプ <sup>※</sup> 又はスランプ <sup>※</sup> フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号	
	普通	24	8	40	BB	
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリ反応抑制対策の方法	BB	
	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>	
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低	℃
				水セメント比の目標値の上限	60	%
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>	
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>	
	呼び強度を保証する材齢	28 日				
空気量	4.5 %		流動化後のスランプ <sup>※</sup> 増大量	cm		

## 使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社		密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> O <sub>eq</sub> %				
混和材①	製品名	種類		密度 g/cm <sup>3</sup>		Na <sub>2</sub> O <sub>eq</sub> %				
混和材②	製品名	種類		密度 g/cm <sup>3</sup>		Na <sub>2</sub> O <sub>eq</sub> %				
骨材	No.	種 類	産地又は品名	アルカリ反応性 による区分	粒の大きさ の範囲	粗粒率又は 実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>	微粒分量 の範囲 %		
				区分	試験方法		絶 乾	表 乾		
	細骨材	①	砕砂	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタル <sup>※</sup> -法	2.5	2.74	2.58	3.0±2.0
	②									
	③									
粗骨材	①	砕石4020	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタル <sup>※</sup> -法	40～20	58.0	2.61	2.62	0.5±0.5
	②	砕石2010	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタル <sup>※</sup> -法	20～10	58.0	2.61	2.62	0.5±0.5
	③	砕石1505	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタル <sup>※</sup> -法	15～5	56.0	2.61	2.62	0.5±0.5
混和剤①		マスケボ <sup>®</sup> リヒト <sup>®</sup> 15L			AE減水剤		Na <sub>2</sub> O <sub>eq</sub> %		1.0	
混和剤②	製品名			種 類						
混和剤③										
細骨材の塩化物量 <sup>①</sup>			水の区分	上水道・上澄水			目標スランプ <sup>※</sup> 固形分率		%	
回収骨材の使用法	細骨材		粗骨材	安定化スラッジ水の使用の有・無						

配 合 表 (kg/m<sup>3</sup>)

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③	
267			156	797			422	369	262	2.94			
水セメント比		58.5 %		水結合材比			%			細骨材率			43.5 %

粗骨材混合比(容積) 砕石4020A:砕石2010A:砕石1505A=40:35:25

備考 配合切り替え日は、工程検査で測定したコンクリート温度が別紙表中の  
各予想練り上がりコンクリート温度を連続3点又は、5点中  
超えたとき又は下回ったとき。  
骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

規格区分: J I S 該当品

配合計算書

呼び方	コンクリートの種類 による記号 普通	呼び強度 24	スラブ又はスラブフォー cm 8	粗骨材の最大寸法 mm 40	セメントの種類 による記号 BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 ℃
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	60 %
	塩化物含有量	0.30	kg/m <sup>3</sup> 以下	単位水量の目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	28	日	単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	空気量	4.5	%	流動化後のスラブ増大量	cm

変動係数(V) 当社社内規格値より V = 9.0 (%)

配合強度(m)  
 $\alpha 1 = 0.85 \div (1 - 3.000V \div 100) = 1.16$   
 $\alpha 2 = 1.00 \div (1 - 2.000V \div 100) = 1.22$   
 $\alpha 1、\alpha 2$ の最大値を割増し係数とします。  
 $m = \alpha \times SL = 29.3$   
 以上より、配合強度(m) = 29.3(N/mm<sup>2</sup>)とします。  
 $\alpha = 1.22$   
 $m = 29.3(N/mm^2)$

水セメント比(W/C)  
 $29.3 = -15.1 + 26.1 \times C/W$ より W/C = 58.783 (%)  
 W/C = 58.5 (%)

単位水量(W) 当社社内規格値より W = 156(kg/m<sup>3</sup>)

単位セメント量(C)  
 $C = W \div W/C \times 100 = 156 \div 58.5 \times 100 = 267(kg/m^3)$   
 $V_c = C \div \rho_c = 267 \div 3.04 = 88(Q/m^3)$   
 C = 267(kg/m<sup>3</sup>)  
 V<sub>c</sub> = 88(Q/m<sup>3</sup>)

粗骨材かさ容積(Q/m<sup>3</sup>) 当社社内規格値より V = 665(Q/m<sup>3</sup>)

単位粗骨材量(G)  
 $V_g = V \times \text{実積率} \div 100 = 665 \times 60.5 \div 100 = 402(Q/m^3)$   
 $V_{g1} = V_g \times (40 \div (40 + 35 + 25)) = 161(Q/m^3)$   
 $V_{g2} = V_g \times (35 \div (40 + 35 + 25)) = 141(Q/m^3)$   
 $V_{g3} = V_g - V_{g1} - V_{g2} = 100(Q/m^3)$   
 $G_1 = V_{g1} \times \rho_{g1} = 161 \times 2.62 = 422(kg/m^3)$   
 $G_2 = V_{g2} \times \rho_{g2} = 141 \times 2.62 = 369(kg/m^3)$   
 $G_3 = V_{g3} \times \rho_{g3} = 100 \times 2.62 = 262(kg/m^3)$   
 V<sub>g</sub> = 402(Q/m<sup>3</sup>)  
 V<sub>g1</sub> = 161(Q/m<sup>3</sup>)  
 V<sub>g2</sub> = 141(Q/m<sup>3</sup>)  
 V<sub>g3</sub> = 100(Q/m<sup>3</sup>)  
 G<sub>1</sub> = 422(kg/m<sup>3</sup>)  
 G<sub>2</sub> = 369(kg/m<sup>3</sup>)  
 G<sub>3</sub> = 262(kg/m<sup>3</sup>)

単位細骨材量(S)  
 $V_s = \text{コンクリート容積} - (W + V_c + V_g + V_{air})$   
 $= 1000 - (156 + 88 + 402 + 45) = 309(Q/m^3)$   
 $S = V_s \times \rho_s = 309 \times 2.58 = 797(kg/m^3)$   
 V<sub>s</sub> = 309(Q/m<sup>3</sup>)  
 S = 797(kg/m<sup>3</sup>)

細骨材率(s/a)  
 $s/a = V_s \div (V_s + V_g) \times 100 = 309 \div (309 + 402) \times 100 = 43.5(\%)$   
 s/a = 43.5 (%)

単位混和剤量(Ad)  
 $Ad_1 = C \times \text{添加率} \div 100 = 267 \times 1.100 \div 100 = 2.94(kg/m^3)$   
 Ad<sub>1</sub> = 2.94(kg/m<sup>3</sup>)

配合表 (kg/m<sup>3</sup>)

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③				
267			156	797			422	369	262	2.94						
水セメント比			58.5	%			水結合材比			%			細骨材率	43.5	%	

## レディーミクストコンクリート配合計画書

2024年 4月 1日

広島県生コンクリート工業組合

殿

製造工場名 中岡生コンクリート株式会社  
広島県東広島市安芸津町木谷乙3517-5  
TEL : (0846)45-5001  
FAX : (0846)45-5720

配合計画者名 中岡 優 司

工事名称	HP掲載用2024
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	11月中旬～4月下旬 冬期修正標準配合
コンクリートの打込み箇所	

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フォー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	60 %
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保證する材齢	28 日		単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	空気量	4.5 %		流動化後のスランプ増大量	cm

## 使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社		密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> O <sub>eq</sub> %				
混和材①	製品名	種類		密度 g/cm <sup>3</sup>		Na <sub>2</sub> O <sub>eq</sub> %				
混和材②	製品名	種類		密度 g/cm <sup>3</sup>		Na <sub>2</sub> O <sub>eq</sub> %				
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性 による区分	粒の大きさ の範囲	粗粒率又は 実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>	微粒分量 の範囲 %		
				区分	試験方法		絶乾	表乾		
細骨材	①	砕砂	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタル法	2.5	2.74	2.58	3.0±2.0	
	②									
	③									
粗骨材	①	砕石4020	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタル法	40～20	58.0	2.61	2.62	0.5±0.5
	②	砕石2010	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタル法	20～10	58.0	2.61	2.62	0.5±0.5
	③	砕石1505	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタル法	15～5	56.0	2.61	2.62	0.5±0.5
混和剤①		マスターボリト <sup>®</sup> 15L			AE減水剤		Na <sub>2</sub> O <sub>eq</sub> %		1.0	
混和剤②	製品名			種類						
混和剤③										

細骨材の塩化物量①	水の区分	上水道・上澄水	目標スランプ固形分率	%
-----------	------	---------	------------	---

回収骨材の使用法	細骨材	粗骨材	安定化スラッジ水の使用の有・無
----------	-----	-----	-----------------

配合表 (kg/m<sup>3</sup>)

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③
256			150	823			422	369	262	2.82		
水セメント比	58.5 %		水結合材比			%	細骨材率	44.2 %				

粗骨材混合比(容積)	砕石4020A:砕石2010A:砕石1505A=40:35:25											
------------	----------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

備考	配合切り替え日は、工程検査で測定したコンクリート温度が別紙表中の各予想練り上がりコンクリート温度を連続3点又は、5点中超えたとき又は下回ったとき。 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。										規格区分: J I S 該当品	
----	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-----------------	--

配合計算書

呼び方	コンクリートの種類 による記号 普通	呼び強度 24	スラング又はスラングフリー cm 8	粗骨材の最大寸法 mm 40	セメントの種類 による記号 BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	60 %
	塩化物含有量	0.30	kg/m <sup>3</sup> 以下	単位水量の目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	28	日	単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	空気量	4.5	%	流動化後のスラング増大量	cm

変動係数(V) 当社社内規格値より V = 9.0(%)

配合強度(m)  
 $\alpha 1 = 0.85 \div (1 - 3.000V \div 100) = 1.16$   
 $\alpha 2 = 1.00 \div (1 - 2.000V \div 100) = 1.22$   
 $\alpha 1、\alpha 2$ の最大値を割増し係数とします。  
 $m = \alpha \times SL = 29.3$   
 以上より、配合強度(m) = 29.3(N/mm<sup>2</sup>)とします。  
 $\alpha = 1.22$   
 $m = 29.3(N/mm^2)$

水セメント比(W/C)  
 $29.3 = -15.1 + 26.1 \times C/W$ より W/C = 58.783(%)  
 W/C = 58.5(%)

単位水量(W) 当社社内規格値より W = 150(kg/m<sup>3</sup>)

単位セメント量(C)  
 $C = W \div W/C \times 100 = 150 \div 58.5 \times 100 = 256(kg/m^3)$   
 $V_c = C \div \rho_c = 256 \div 3.04 = 84(Q/m^3)$   
 C = 256(kg/m<sup>3</sup>)  
 Vc = 84(Q/m<sup>3</sup>)

粗骨材かさ容積(Q/m<sup>3</sup>) 当社社内規格値より V = 665(Q/m<sup>3</sup>)

単位粗骨材量(G)  
 $V_g = V \times \text{実積率} \div 100 = 665 \times 60.5 \div 100 = 402(Q/m^3)$   
 $V_{g1} = V_g \times (40 \div (40 + 35 + 25)) = 161(Q/m^3)$   
 $V_{g2} = V_g \times (35 \div (40 + 35 + 25)) = 141(Q/m^3)$   
 $V_{g3} = V_g - V_{g1} - V_{g2} = 100(Q/m^3)$   
 $G_1 = V_{g1} \times \rho_{g1} = 161 \times 2.62 = 422(kg/m^3)$   
 $G_2 = V_{g2} \times \rho_{g2} = 141 \times 2.62 = 369(kg/m^3)$   
 $G_3 = V_{g3} \times \rho_{g3} = 100 \times 2.62 = 262(kg/m^3)$   
 Vg = 402(Q/m<sup>3</sup>)  
 Vg1 = 161(Q/m<sup>3</sup>)  
 Vg2 = 141(Q/m<sup>3</sup>)  
 Vg3 = 100(Q/m<sup>3</sup>)  
 G1 = 422(kg/m<sup>3</sup>)  
 G2 = 369(kg/m<sup>3</sup>)  
 G3 = 262(kg/m<sup>3</sup>)

単位細骨材量(S)  
 $V_s = \text{コンクリート容積} - (W + V_c + V_g + V_{air})$   
 $= 1000 - (150 + 84 + 402 + 45) = 319(Q/m^3)$   
 $S = V_s \times \rho_s = 319 \times 2.58 = 823(kg/m^3)$   
 Vs = 319(Q/m<sup>3</sup>)  
 S = 823(kg/m<sup>3</sup>)

細骨材率(s/a)  
 $s/a = V_s \div (V_s + V_g) \times 100 = 319 \div (319 + 402) \times 100 = 44.2(\%)$   
 s/a = 44.2(%)

単位混和剤量(Ad)  
 $Ad_1 = C \times \text{添加率} \div 100 = 256 \times 1.100 \div 100 = 2.82(kg/m^3)$   
 Ad1 = 2.82(kg/m<sup>3</sup>)

配合表 (kg/m<sup>3</sup>)

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③					
256			150	823			422	369	262	2.82							
水セメント比			58.5	%			水結合材比			%			細骨材率		44.2	%	